

# ウポポイ来場促進に向けた連絡会議

## 国土交通省提出資料

令和5年2月7日

国土交通省北海道局



ウポポイ  
HOKKAIDO UPOPOI CENTER  
民族共生象徴空間

行くなら



家族連れやリピーターの誘客を目指し、冬ならではの魅力を活かしたプログラムや新たな試みとなるドローンショー等を実施。回復しつつあるインバウンドを含め、積極的に広報・誘客活動を展開。

## イベントの実施

▶ 家族連れやリピーターを引きつける冬ならではの体験プログラム・イベントを実施



冬イベント  
第1弾 (12/1～)



第2弾 (12/16～)



第3弾 (1/16～)



ホワイト  
イルミネーション



ドローンショー



鹿革そりすべり

## 積極的な広報・誘客活動の実施

▶ YouTube等を活用したデジタル広報

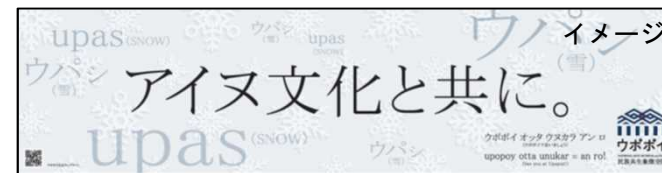


動画・バナーを出稿

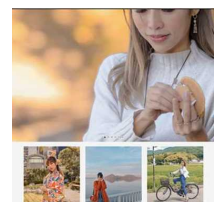


WEBメディアに特集記事を掲載

▶ 「さっぽろ雪まつり」におけるPR広告の掲出



▶ 海外インフルエンサーを活用したプロモーション



Instagramフォロワー数  
**39万**  
WEBサイト月間PV数  
**15万**

アジア・欧米豪へ発信力の高い  
インフルエンサーを活用

▶ 冬季教育旅行やインバウンドの誘致拡大に向けた  
ファミツアーの実施 (JNTO等と連携)

# 来場者サービスの向上について

来場者サービスの向上に向け、令和4年度補正予算により、下記の事項を実施予定。

## 1 予約管理システムの改善、インバウンド向けガイドアプリの導入

- ▶ ウポポイの予約入場の際して、予約からプログラム体験までワンストップで実現できるシステムを提供
- ▶ 外国人来場者向けにガイドするアプリ（公式音声アプリ・AR）を開発・導入

＜イメージ＞

QRコード決済



AR技術を活用した  
ガイドアプリ



## 2 園内モビリティの導入

- ▶ 高齢者の方や足の不自由な方からの声や、雨や雪の日の移動が大変との声に対応し、園内モビリティを導入

＜実証実験の様子 R4.11-12＞  
モビリティの外観



停留所



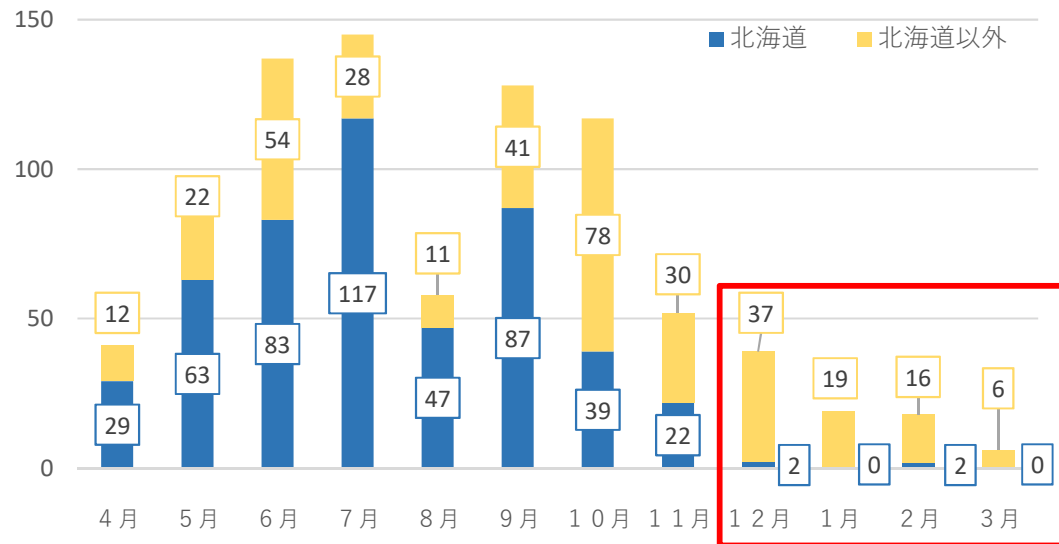
モビリティ  
車内



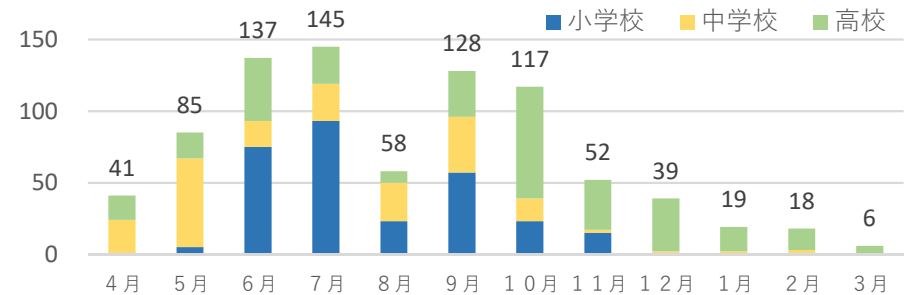
## ウポポイへの教育旅行に関する現状

- ▶ 令和4年度の教育旅行は約8万人（予約ベース）と昨年度比で約3万人増加（令和3年度は約5万人）。
- ▶ 教育旅行は春から秋にかけての来訪が大半を占めるため、冬期は大幅に減少している状況。

<令和4年度道内・道外別来訪数>



<（参考）令和4年度学校別来訪数>



- 冬期における来訪校の約95%は道外（主に近畿以西）から来訪
- 来訪校はスキー学習と組み合わせる学校が多い傾向にある。

▶ **冬期に教育旅行の来場者が落ち込む主な要因は以下と考えられる。**

- ①ウポポイが抱える要因（短期的な課題）
  - ・冬ならではの体験コンテンツなどについて、更なる充実が必要なのではないか。
  - ・発地ごとの来道傾向を踏まえた、面的なプロモーションが不足しているのではないか。
- ②北海道全体が抱える要因（中長期的な課題）
  - ・他地域と比べた場合、航空運賃などコスト面での課題があるのではないか。
  - ・関係機関の一体的な取組により課題解決を図る等、来道者数全体の底上げが必要なのではないか。

# (参考①)教育旅行誘致の現状と課題について

## 課題：発地ごとの来道傾向を踏まえた面的プロモーション

### 重点エリア①：来道率＞来訪率

※来道率：教育旅行データBOOK(2020年度版(2018年度実績))より算出  
 ※来訪率：ウポポイ来訪数(令和4年度予約数)÷各都道府県別の高校における学校数(文科省調査)

<来訪率が来道率に近い地域> <来道率に比べ来訪率が低い地域>

|     | 来訪率  | 来道率  |     | 来訪率  | 来道率  |
|-----|------|------|-----|------|------|
| 香川県 | 45.0 | 50.0 | 佐賀県 | 0.0  | 27.3 |
| 徳島県 | 36.1 | 42.9 | 福井県 | 0.0  | 25.0 |
| 岡山県 | 20.0 | 20.8 | 山口県 | 2.7  | 12.1 |
| 福岡県 | 8.1  | 10.0 | 京都府 | 10.1 | 40.0 |
| 静岡県 | 6.6  | 7.4  | 大阪府 | 11.2 | 33.3 |
|     |      |      | 三重県 | 11.9 | 23.0 |
|     |      |      | 滋賀県 | 13.0 | 37.5 |

- ・来道校の多くがウポポイを訪問している地域の一方で、すでにスキー学習などで来道しているにも関わらず来訪率が低い地域が存在。
- ・集中的なプロモーションにより、短期的に効果が上がる可能性が高い。
- ・ウポポイ単体ではなく、周辺地域と連携し、来訪を促すことが必要。

<当面の間行う誘客への取り組み>

- ①京都府、大阪府を始めとする近畿圏への集中的なアプローチ
- ②佐賀県、福井県、山口県に対する個別アプローチ

▶ **北海道観光振興機構やスキー学習を受け入れている地域における取り組みとの連携・協力をお願いしたい。**

### 重点エリア②：来道ポテンシャルがある地域

〔例：スキー学習を実施する近畿以西の学校や沖縄エリア〕

- ・スキー旅行のニーズは近年減少傾向にあるが、スキーとの組み合わせとして自然・文化体験の要望は多い  
 (例：ニセコのフィールドで海外移住者との交流やまちづくりの学習) (中国地方旅行会社)
- ・旅行会社の沖縄受入担当が「脅威」に感じるくらいウポポイはコンテンツとして素晴らしい。教育旅行の受入を扱う道内の旅行会社と連携し沖縄へ営業展開すべき。特に冬季の私学誘致については伸びしろがある (JATA九州支部)

<当面の間行う誘客への取り組み>

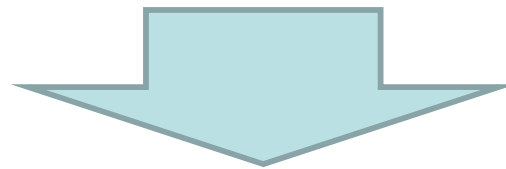
- ・中国地方でスキー学習を行っている高校に対して、アイヌ文化体験をPRしたアプローチを実施。
- ・沖縄地方(特に私学)に北海道観光振興機構や道内の旅行会社と連携しアプローチを実施。

▶ **関係機関が連携し、短期的な取り組みだけでなく、他地域と比較した優位性やメリットを中長期的に検討するなど、来道校を継続的に維持・獲得する取り組みを並行して行うことが必要。**

## 課題：北海道全体が抱える要因

### <コスト面などに対する旅行会社ヒアリング結果>

- 北海道へ冬期教育旅行を計画しているほぼ全ての学校がスキー合宿を計画しており、12月から雪まつり前の一般旅行客需要の谷に合わせて訪れる傾向。札幌・富良野に滞在し、ニセコ・トマムでスキーをするのが主流のため、スキーの時間を削ってでも来てもらうための訴求要因が必要（道観光振興機構）
- 観光商材が密集しておらず分散型になっている事も阻害要因となっている（JATA東北支部）
- 他地域に比べて選択されないのはコスト面が課題。例えば、ウポポイを行程に含んだ教育旅行は航空運賃1割引などをすると来訪校が増えるかもしれない（中部運輸局）
- 公立高校の予算上限が105,000円と定められている中、北海道は運賃だけで6割ほどかかるため、道内での移動費削減などを考慮すると、札幌近郊でスキー等のプランを済ませる必要があり、北海道を旅行先から外すことも考えている（四国地方旅行会社）
- ウポポイが教育旅行の訪問地として意義深い施設ではあるが、予算面が最大のネック（九州運輸局）



### <今後解決すべき課題>

- ▶ 周辺地域と連携しつつウポポイとスキー学習受入れ施設における地域間の円滑な移動を可能とする仕組み作りの検討が必要。
- ▶ 他県（山梨県や奈良県など）の取り組みを参考に、航空運賃を始めとする移動費用や宿泊費用を助成するための仕組み作りについて検討を行う必要。

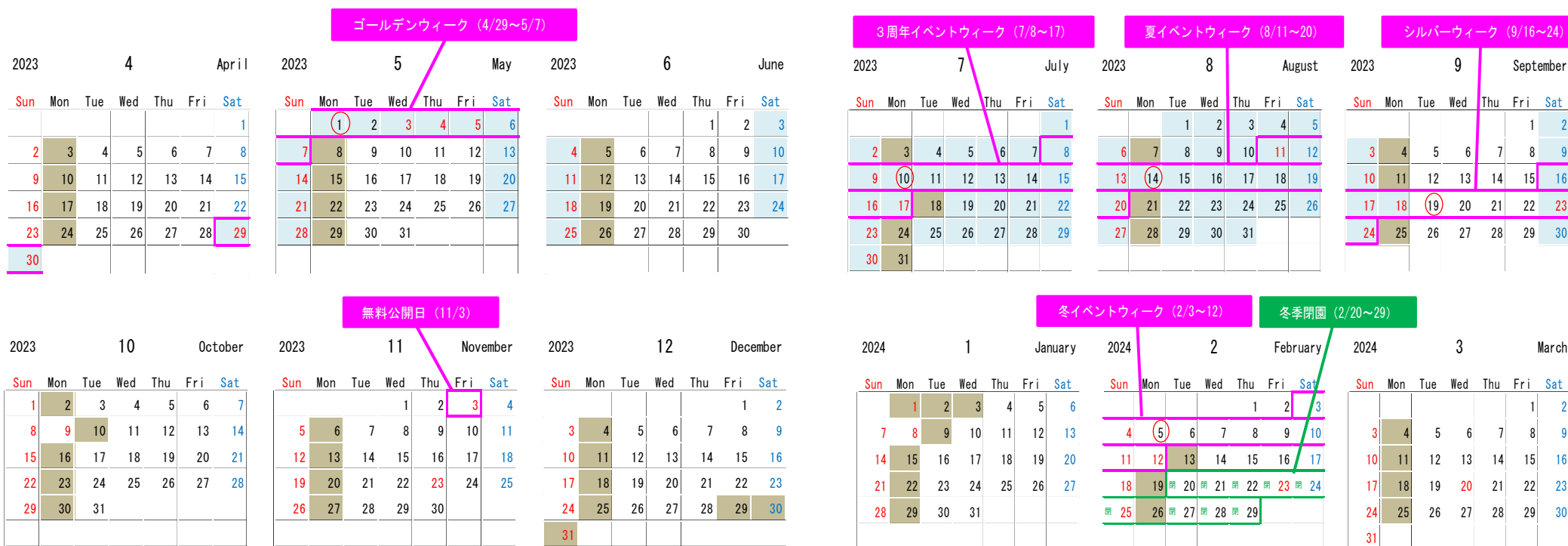
## 令和5年度公開日

### 1 臨時公開日の新設

- ▶ 集客が見込まれる週の閉園日（主に月曜日）を臨時公開  
〔5/1（月）、7/10（月）、8/14（月）、9/19（火）、2/5（月）〕

### 2 閉園日の追加

- ▶ 閑散期である2月の一定期間を閉園日とし、この間に職員の研修や外部公演、施設・機器のメンテナンス等を実施  
〔2/20（火）～2/29（木）〕



(※) ■ 閉 . . . 閉園日    ○ . . . 臨時公開日    ■ . . . 夜間営業日

【閉園時刻：18時00分】

※夜間営業日は20時00分

※11月1日～3月31日は17時00分